1問1点、12点満点
平均：8.59
分散：3.95

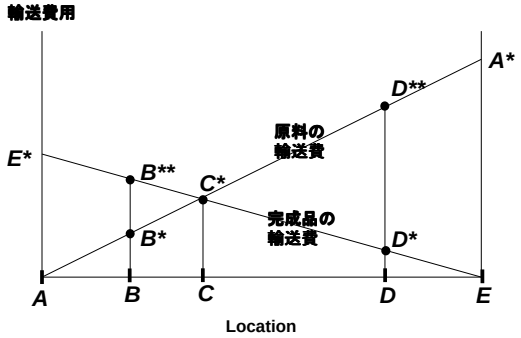
2018/10/2

『都市の経済学　小テスト No. 1』

以下の各問に答えよ。ただし、解答はマークシート方式となっているので、問題の解答番号に入る数値または選択肢番号を解答用紙（マークシート）に解答すること。
※[-]で囲まれた数字は解答番号を示す。〇で囲まれた数字は選択肢番号を示す。

1.　The one input, the one market model について

ある企業は、原料を入手し、加工して、完成品を生産している。この企業は、図の点 A で原料を入手することができ、点 E で完成品を売却することが出来る。図の AA*は原料を輸送するときの費用曲線を表し、E*E は完成品を輸送するときの費用曲線を表す。



1.1. この企業が点 D に立地し、原料を加工した場合、完成品の輸送費用はいくらになるか？[1]（①DD*、②DD**、③D*D**、④2DD*、⑤その他）
1.2. この企業が点 B に立地し、原料を加工した場合、原料の輸送費用はいくらになるか？[2]（①BB*、②BB**、③B*B**、④2BB*、⑤その他）
1.3. この企業が点 C に立地し、原料を加工した場合、総輸送費用はいくらになるか？[3]（①CC*、②CD、③2CC*、④2CD、⑤その他）
1.4. この企業が利用する原料と完成品は、どちらが重いか？[4]（①完成品、②原料、③重さは等しい、④不明）
1.5. この企業は費用を最小化するためにはどこに立地すればよいか？[5]（① 点 A、② 点 B、③ 点 C、④ 点 D、⑤ 点 E、⑥その他）

2.　都市経済学と住宅問題について

2.1. 先進国において都市化の最も早く進んでいた国は（[6]：①イギリス、②中国、③米国、④日本）である。
2.2. 都市化は、郊外部が（[7]：①拡大、②縮小、③後進　）していくことと等しい。
2.3. 日本の都市化を DID の変化で検討すると、都市化への変化が最も大きかった年代は（[8]：①1960 年代、②1970 年代、③1980 年代、④1990 年代、⑤2000 年以降　）である。この時期の日本経済は、（[9]：①オイルショック、②デフレ経済、③バブル景気、④バブル崩壊、⑤高度経済成長　）を経験している。
2.4. 都市化は、都市部への人口移動が加速し、人口密度の（[10]：①低下、②減少、③上昇　）、郊外化の進展、土地利用の（[11]：①普遍化、②高密度化、③初期化　）が同時に進展する。その結果、住宅不足・地価高騰・長時間通勤などの住宅にまつわる様々な問題が発生し、その対策として住宅・土地に関わる様々な政策が導入されることとなる。このように、住宅に関連する問題は都市の（[12]：①衰退、②多様性、③発展　）と関係しており、都市について学ぶことは住宅問題の理解を深めることになる。